

令和3年度
10月

幼稚園だより

令和3年9月30日
文京区立湯島幼稚園



安心を土台に

副園長 工藤 真規子

爽やかな風によって、園庭やホール、保育室などあちこちからにぎやかな音が聞こえてきます。ゆり組のリレーやリズムの練習が始まると、もも組やばら組の子どもが見に集まってきました。ゆり組の姿に「すごい!」「もっと見たい!」と素直に喜んだり応援したりし、運動会への気持ちが高まってきています。それと相まって、自分たちの取り組みも楽しくなっていくようです。

子どもたちの成長が目に見えて感じられる運動会。今年は実施できるのか、気掛かりな毎日を過ごしてきました。

私は通勤の電車内でうっかりどこかに触れてしまわないか、マスク越しでも大きな声で会話をしている人がいないかなどが気になり、帰宅するまで緊張が解けません。このような生活が長く続くにつれ、子どもたちが園の中で安心して過ごせるようにしたいという思いをより強く感じています。湯島幼稚園では、用務主事がドアノブや手すりなどについて定時の消毒拭き上げを行っています。今年度から看護師が週一回の勤務になりました。看護師のアドバイスのもと、効果的で安全な消毒液の種類や方法の使い分けをしています。保育後には教職員で保育室や遊具などの消毒を行っています。

マスクの着用や静かに食事をするなどの日常の制約はしばらく続きますし、全ての行事が以前のように実施できるにはもう少し時間がかかりそうです。それでもニュースからは明るい兆しを感じられるようになりました。大人も子どもも皆が「いまできること」に向けて取り組んできたことの成果ですね。

コロナ禍は「子どもにとって一番大事なことは何か」「工夫できることは何か」を深く考えるきっかけになりました。

運動会では、一人一人の頑張りをご覧いただきたいと思います。その土台となっているのは学級で過ごしてきたこれまでの幼稚園生活です。

保護者の皆様には毎日のお子さんの体調管理と教育活動へのご理解・ご協力をありがとうございます。幼稚園が安心・安全な場所であり、楽しい教育活動が展開できるよう、教職員一同、これからも取り組んでまいります。